

災害と小さな地方自治体 ～阪神淡路大震災を体験して～

平成 23 年 4 月 26 日

元芦屋市長 北村 春江

I 被災について

1. 震災の状況

(1) 芦屋市の状況

(2) 地震の想定全くなし

(3) 大きすぎた被害

高齢社会の都市直下型

阪神間で一番高い被災率

{	全半壊	50.9%
	死者	444人

(4) 私の状況

夫の重傷

家屋の全壊

2. 人命救助に関する緊急措置指示

対策本部設置

救護所開設

遺体安置所開設

3. 初期段階 1 週間

余震の恐怖

情報収集、伝達不可能に近い

人員不足

鉄道不通

交通渋滞

食料の調達

人命救助の資機材なし

負傷者搬送

遺体の収容…火葬

避難所対応、障害者・外国人対応

仮設トイレ

電話対応班

ボランティア対応

4. 復旧段階

仮設住宅建設

災害公営住宅建設

公共施設復旧

危険度判定

罹災証明・義援金・貸付金・弔慰金

災害廃棄物処理

区画整理

5. 高齢者の避難

II トップの危機管理

1. 災害に強いまちづくり
 - ・耐震強化
 - ・自主防災意識の高揚
 - ・自主防災組織づくり

} 行政には限界あり

 - ・応援協定 近隣だけでなく広範囲
2. 地域防災計画で対応

震災時の防災計画は全く役に立たなかった
同型の災害以外の状況も想定し計画策定する
3日間の対応を十分考えておくこと
十分な訓練
 3. トップの強力・適切なリーダーシップと現場の独自に適切な状況判断での対応

国・県対策本部・県民局等との窓口一本化
組織的に動く余裕なく、目の前のことに対応 マニュアルどおりにいかない
職員・市民にも、日頃から危機管理についての訓練必要
 4. 広報活動
 5. 応援側と受入側のマニュアル
 6. マスコミ対応 はじめ神戸中心 広報担当者 しっかりした人
 7. 統一地方選延期
 8. 1/17 早朝 連休の翌朝 家族が集まっていた

四季の異なる対応
時間の異なる対応
場所の異なる対応

知事から電話連絡が入ったのは 1/18

2011.4.16現在

	阪神淡路大震災	東日本大震災
日 時	1995. 1. 17(火) 5時46分	2011. 3. 11(金) 14時46分
規 模	マグニチュード 7. 2 ・ 内陸直下型	マグニチュード 9. 0 ・ 海溝型
死 者	6,402人	13,705人
行方不明者	3人	14,175人
負傷者	重傷・軽傷合わせ 40,092人	
建物被害	(全・半壊) 240,956棟 (火災 全・半焼) 7,454棟	建物損壊 53,240棟 但し、約15市町村は不明 火災等も不明 福島第一原発、第二原発は除く